

## 大学生が金山で国際ワークショップ 成果をまちづくりに活かそうと提案

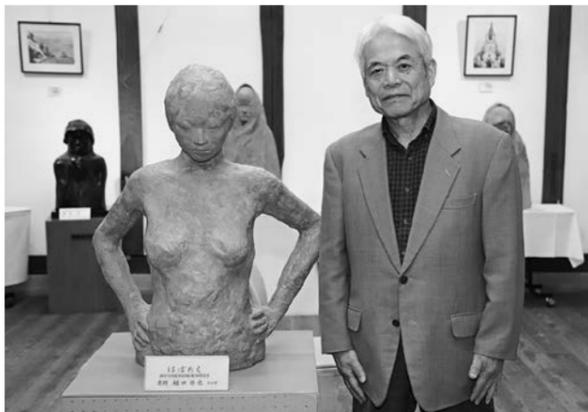
東北大学と中国華中科技大学の学生らが10月1日～7日にかけて、金山をフィールドに合同で国際ワークショップを行い、町の自然や文化にふれながら、住民の隠れたニーズを模索しました。最終日には約80名の前で成果を報告。彼らの専攻である建築学の視点から「旅行者が長く滞在できるような新たな宿泊施設があつてはどうか」など、今後のまちづくりへの提案がなされました。



▲学生は5班に分かれ、それぞれ違った視点で報告された

## 樋口勝也彫刻展～雪国に生きて～ 彫刻家として55年の作品がずらり

元金山町教育長の樋口勝也さんの彫刻展が10月18日～24日の7日間、蔵史館を会場に開催されました。雪国の生活の中で感じて制作した女性像や子ども像など彫刻22点、絵画15点を展示。樋口さんは「彫刻制作を続けて55年。色々な思いの詰まった作品だ」と笑顔で話していました。今後について「日本家屋に合うような、抽象的な小作品を制作していきたい」と新たな意欲を示していました。



▲最も気に入っているという作品「はばたく」と樋口さん

▼終始笑顔の佐藤さん。秋田県から駆け付けたというファンも



## 民謡日本一の佐藤麻衣さん 蔵史館で民謡ショー「お月見の宴」

(株)カネカ従業員の佐藤麻衣さん（新庄市）の民謡ショーが9月25日、蔵史館を会場に開かれ、約120名の来場者が力強い歌声に圧倒されました。佐藤さんは数々の民謡全国大会で優勝してきた実力者。軽快なトークを交えながら、地元を代表する「真室川音頭」など15曲を披露しました。威勢の良いお囃子が唄をさらにひき立て「とても楽しく歌えた」と佐藤さんは笑顔で話していました。

▼2年に1度開催される墨の社中展。今回も力作ぞろい



## 第六回墨の社中展 大郷書院門下生による力作が揃う

10月10日～14日、蔵史館を会場に第六回墨の社中展が開催されました。大郷書院の門下生10名による作品を展示。来場者は堂々とした力作を感じて見入っていました。門下生の中には、70歳を超えて書道を始めた方もいるそう。代表の寒河江大郷さんは「書道は大人のための生涯学習でもある。門下生の最高齢は88歳。筆を持つことは、健康長寿の秘訣かもしれない」と話していました。



▲訪れるたくさんの方へ、岸先生が優しく微笑みかけている

## 「大豆ミート」でカロリーオフ 町食改のヘルシー料理教室

9月27日、ヘルシー料理教室が中央公民館調理室で開かれ、およそ20名の参加者が、大豆ミートを使いカロリーを抑えたメニューに挑戦しました。町食生活改善推進協議会が初めて企画したもので、キーマカレーと唐揚げをのせたサラダを調理。分担して手際よく2品を完成させていました。試食すると「大豆とは思えない。精進料理などにもアレンジできそうだ」と驚いた表情を見せていました。



▲キーマカレーに使用したのはミンチ状の大豆ミート

# まちの わだい



身近なわだい、お寄せください。  
総務課 広報情報係 ☎52-2111(内線225)

## 岸宏一先生の胸像が建立 類まれなる業績をたたえて

金山町や山形県に多大なる功績をあげられた岸宏一先生の胸像が町役場駐車場脇に建立され、10月14日にお披露目されました。岸先生は、金山町長在職中に全国初の公文書公開条例を制定したほか、参議院議員として国政で活躍された、言わば郷土の育んだ偉人。発起した顕彰会では「先生の類まれなる業績を顕彰するべく建立に至った。多くの方にご覧になっていただきたい」と話していました。

▼カラオケは楽しく歌うことが一番。皆さん笑顔で手をたたく



## 歌・カラオケ文化は町にうるおいを 金山歌ノ会が「歌の力」で様々な交流

10月13日、金山歌ノ会（永山茂樹会長）が主催する「第5回早朝カラオケ皆で歌おう」が、産業まつりの中止に伴い町内飲食店を会場に移して開かれ、8名が歌声を披露しました。また、1日には同会と以前から親交の深い庄内マイルドスターズサークル（酒田市）ほか3団体との交流会を開催。新曲「ふるさと金山炎華ばやし」をきっかけに、話に花が咲き、歌で心と心を繋ぐひとときとなりました。